

令和7年度学校評価書

岡山県立津山東高等学校
校長 山本 浩之

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

1 主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成

- ・学校自己評価アンケートの生徒に対する項目「教員は、授業の計画、授業展開の工夫をしている」の肯定的評価が87%(前年比-2%)、「授業や部活動・学校行事などで、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定的評価が87%(前年比+1%)と高かった。本校教育の特徴である主体的な学習、総合的な探究の時間「行学」での地域課題解決型の地域をフィールドにした探究学習、発表会などに対する生徒の満足度が高いことが伺えた。また、ペアワークやグループワークを積極的に取り入れるなどの授業改善に取り組んできた成果であり、一人一台端末を活用した授業展開が積極的に行われている結果であると分析している。次年度以降も引き続き進路実現を見据えた主体的な学習を行っていききたい。

2 健やかな心身の育成と人間力の向上

- ・生徒会行事の東雲祭において、生徒主体で取組、生徒同士が支え合う集団づくりにつながった。体育祭の実施形態も含め、更なる発展のために課題を検討していききたい。
- ・本年度は津山市がインターハイ(ソフトボール)の開催地となり、多くの生徒が運営の補助に当たるなど、ボランティア活動に多くの生徒が積極的に取り組んだ。
- ・生徒会活動・部活動について「学校は、生徒会活動や部活動などの主体的活動を支援している。」の項目で肯定評価が79%(前年比+1%)となり、それぞれの活動において主体的に活動できた。

3 安全安心で快適な学校づくりのための施策の推進

- ・避難訓練を年2回実施し、いずれも無線機を活用し、予告あり・予告なしの状況で様々なシチュエーションを想定した内容で行うことができた。学校自己評価アンケートの項目「学校は安全・安心な学習環境づくりに努めている」の肯定的評価が保護者・生徒ともに高い結果がでている(保護者84%、生徒79%)。

4 学校の魅力化と情報発信(開かれた学校づくり)

- ・今年度は部活動公開とオープンスクールの開催日を分け、8月に実施した。オープンスクールでは、体験授業に加え、生徒会生徒の発案で在校生との座談会を行い、参加した中学生のアンケート結果からも好評だったことがうかがえた。今後も生徒会を中心とした生徒主体のオープンスクールを実施していききたい。
- ・ホームページで本校の教育活動や部活動での活躍状況などをタイムリーに発信することができ、アクセス数からも一定数の方々に広報できた。また、新たにInstagram・Facebookを立ち上げ、多くの人に津山東高校の魅力を発信した。
- ・国際交流について、市内の留学生との調理実習を通じた交流や、オーストラリアとのオンライン交流会などを行い、多くの生徒が参加した。ただ、参加した生徒の中には「もう少しコミュニケーションの練習をしておけばよかった。」という感想をもつ者もあり、事前事後学習の充実が望まれる。またアンケート項目「国際交流や国際理解の機会があり、グローバル教育が行われている。」についての生徒の肯定的評価が52%とやや低い結果が出ており、より生徒が参加しやすい取組を計画し、国際交流の機会を増やしていききたい。

2 学校関係者評価委員名（学校運営協議会委員 五十音順 ※校長を除く）

門長 儀紘（有）キャンパスショップラビット代表取締役）
櫛田 晃稜（本校PTA会長）
高橋 英資（㈱マルイ総務人事部次長）
布上 朋和（津山市医師会理事）
長谷川 勝一（美作大学副学長）
福田 倫文（津山市企画財政部みらいビジョン戦略室室長）
三村 雅彦（NPO法人みんなの集落研究所上級研究員）
室川 基（津山市教育委員会学校教育課 家庭・地域連携係長）
山名 敏和（林田宮川町町内会長）

3 学校関係者評価

- ・家庭学習時間を増やすためにメディア時間を減らす必要があると言われたが、今の生徒はYouTubeなどの動画も勉強に活用している。メディアも有効に活用できるよう、観点を変えていくことも必要なのではないか。
- ・「働き方改革」についての協議があったが、学校評価アンケートの「教員が津山東高校の教員としてやりがいを感じている」との問いに、肯定的な回答が今年度は14ポイント増えている。先生方が忙しくてもやりがいを感じながら働いていることはよい傾向だと思う。
- ・先生方の授業参観率が上がらないことについて、先生方は忙しいので、最初からどの授業を参観するかを予定しておくのがよいと思う。また、若い先生方もおられるので、授業参観後に教員間で協議をすることが重要だと思う。
- ・大学では講義を工夫している先生を表彰し、表彰した次の年に検証している。よい授業を紹介し合う仕組みがあってもよいのではないか。
- ・今年度からSNSでの情報発信を取り入れているので、中学生に限らず、広く広報を行う表現にしてはどうか。
- ・行学について、3年間のプログラムが組まれているのが大きな特徴だと思っている。生徒に身に付けて欲しい力を3年間で力をつけさせ、ステップアップできている。行学は本校の特徴的な取組であるため、特色を生かし開かれた学校として、2年生の成果報告をする「行学発表会」を保護者や地域の方に公開できればよいと思う。
- ・看護師だけでなく、教員も志願者が出にくい状況である。つらい、大変というのが先行してしまうと、親が避けてしまう。やりがいを伝えていき、中学生に向けての生徒募集につなげてほしい。

4 来年度の重点取組（「令和8年度学校経営計画書」より）

- 1 主体的・対話的で深い学びによる資質・能力の育成
 - （1）学習指導要領に基づく指導と評価の一体化（授業・学習評価の改善等）
 - （2）多様な進路実現に向けた確かな学力の育成
 - （3）資質・能力の向上を目的としたICT・デジタル機器の効果的活用の研究と実践
 - （4）各教科、特別活動、地域と連携した「行学」等によるキャリア教育の充実
- 2 健やかな心身の育成と人間力の向上
 - （1）生徒同士及び教職員同士が互いを敬い、高め合える集団づくりの推進
 - （2）特別活動、部活動、ボランティア活動への生徒の主体的な取組の推進
- 3 安全安心で快適な学校づくりのための施策の推進
 - （1）教育相談体制の充実やアセスメントの活用等による生徒の悩みへの適切な対応
 - （2）交通や防災等についての安全意識やモラルの育成
- 4 学校の魅力化と情報発信（開かれた学校づくり）
 - （1）教育活動の魅力化と中学生をはじめ地域社会への広報活動の更なる充実
 - （2）国際交流、短期留学等を通じた国際性豊かな学校づくり